

GAP Japan 2017

GAPは進化する

— 深めるASLAGAP、広げる家畜・畜産物GAP —

2017年9月

一般財団法人 日本GAP協会 理事会

I. 今日までのJGAP

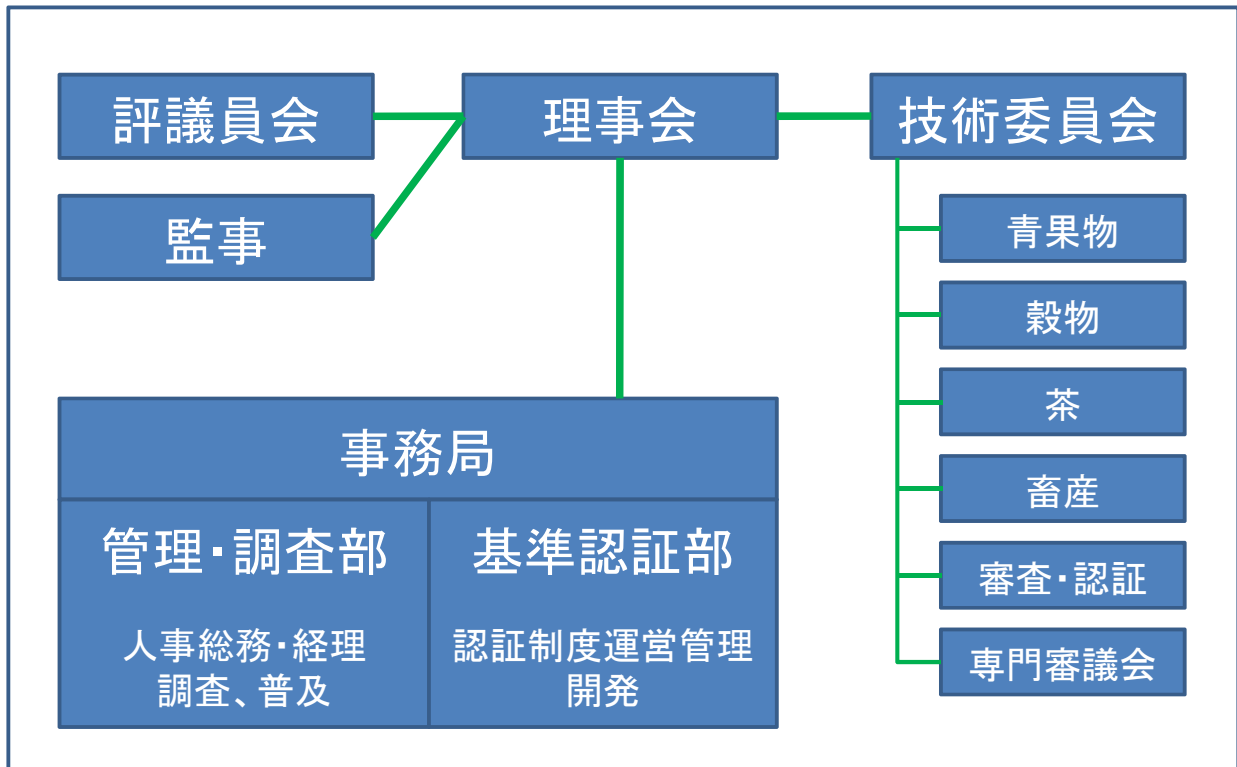
JGAPは食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証であり、日本発の国際水準のGAP認証制度

- JGAPは、日本の標準的なGAPとして高い評価を得ており、様々な農産物ビジネスの共通の土台として活用。
- 対象とする農産物は青果物、穀物、茶に加え、新たに家畜・畜産物の基準書を完成。
- 播種から収穫、農産物の取扱いまで、多数のチェックポイントについて専門の審査・認証機関が審査を行う(第三者認証)ため、客観的で高い信頼。
- 認証は2年更新であり、中間では維持審査を実施。

3

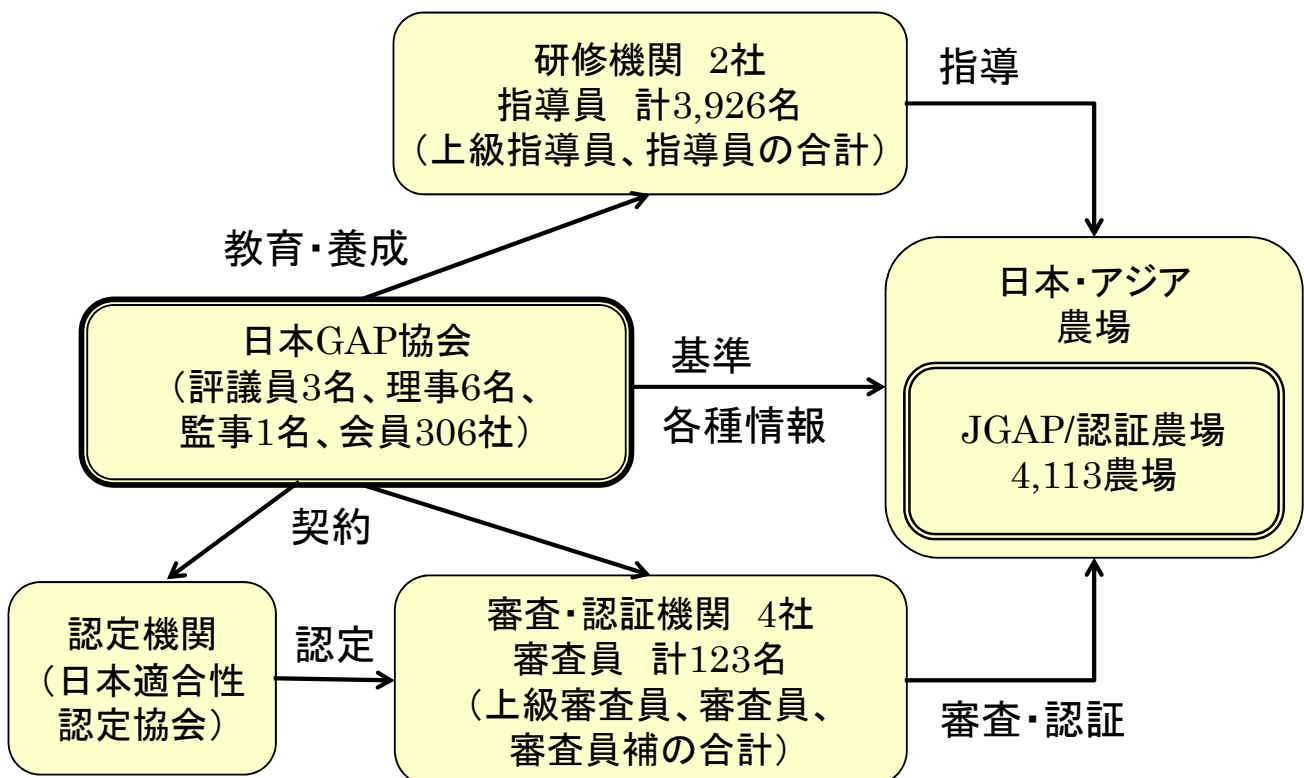
日本GAP協会の歩み

- ◆ 2002-2007年 流通・JA・行政等、多様なGAPが日本国内で作られていく
- ◆ 2006年11月 NPO法人日本GAP協会 設立
 - 設立の目的①：日本の業界標準のGAPを構築すること
 - 設立の目的②：世界に通用する日本の本格的なGAPを創り、普及すること
- ◆ 2007年11月 JGAPの第三者認証制度がスタート
- ◆ 2008年10月 日本GAP協会 基本方針および行動目標 策定
- ◆ 2010年6月 JGAP青果物2010を発表。農水省ガイドラインに対応
- ◆ 2010年7月 JGAP認証の消費者向け表示を開始
- ◆ 2013年7月 JGAP英語版の発表/JGAP取組宣言制度の開始
- ◆ 2015年1月 一般財団法人日本GAP協会、NPO法人アジアGAP総合研究所の2法人体制に発展
- ◆ 2016年5月 Basic及びAdvanceの2本立てとなる「JGAP2016」を発表
- ◆ 2017年3月 初の畜産のJGAPとなる「JGAP 家畜・畜産物」を発表



5

JGAP指導・普及の体制と仕組み



※家畜・畜産物は日本GAP協会による認定も含む


(数字は2017年3月時点)

<ASIAGAP(旧JGAP Advance)改定のポイント>

- **GFSI承認の国際規格として展開することを目指すスキーム。**
※ GFSI Benchmarking Requirements Version7（及び7.1）に対応するため、JGAP Advanceを改定。

◆ JGAP Advance 2016からの主な改定内容

- ✓ 食品安全に関するリスク管理を、GFSIが重視するHACCPベースのシステムとして整理
- ✓ 食品防御の計画の文書化、食品偽装への対応
- ✓ アレルゲン表示や、アレルゲン物質の交差汚染への対応
- ✓ 水を保管する場合の衛生管理
- ✓ 総合規則において、無通知で行う審査の導入 ……など

 2017年8月1日より運用開始

7

JGAP Basicの改定のポイントと基準書の版の一覧

<JGAP(旧JGAP Basic)改定のポイント>

- JGAP Basicについては、基準の連続性を重視し、特段の改定は行わない(総合規則の年次改定のみ)。
- JGAP Advanceの名称変更に伴い、スキーム名を10年の歴史を持ち多くの生産者や食品流通業者、食品製造業者からの支持を得てきた「JGAP」に変更。

日本GAP協会が管理・運営を行うGAPのスキーム (基準書の版の一覧)

◆ **ASIAGAP Ver.2**

- ◆ **ASIAGAP Ver.1**(旧JGAP Advance 2016。2018年7月末までは新規の審査を継続して受付。維持審査も同様であり、3年間は平行して運用。)

◆ **JGAP 2016**

- ◆ **JGAP 2010/2012**(2017年8月末で新規の審査受付を終了)

8

- 日本GAP協会では、先行して取り組んできた青果物・穀物・茶が一定の段階に達したこと、同時に、2020年東京オリンピック・パラリンピックへの対応や輸出の促進が畜産業における重要な課題となっていること等を踏まえ、「JGAP家畜・畜産物」の開発に着手することを決定。
- 2016年10月以降、技術委員会を開催して基準書の開発を進め、パブリックコメントの実施を経て、本年3月31日に完成・公表。
- これに基づく審査及び指導の体制を順次整備してきており、この秋より、審査及び研修を開始。

<JGAP家畜・畜産物の骨子>

- 農場運営、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、人権の尊重に、アニマルウェルフェアへの配慮を加えた家畜・畜産物の総合的なGAP
- 乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、肉用鶏の生体と生乳、鶏卵を対象
- 審査・認証等は、他のJGAP基準に準拠

9

- **飼養衛生に関する管理**については、「4.1 飼養衛生管理基準の遵守」において、附属書として添付した飼養衛生管理基準の全項目について不適合がないことを、年一回以上、確認することを要求。
- **アニマルウェルフェア**については、附属書として添付した「アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針」のチェックリストを活用して飼養管理の改善に取り組むことを要求。当該指針は、公益社団法人畜産技術協会が、OIE(国際獣疫事務局)のアニマルウェルフェアに関する規約(コード)で各畜種の生産システムに関する規約等に準拠して、乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏及び肉用鶏についてそれぞれ作成しているもの。
- **農場HACCP認証基準**の認証取得農場に対しては、JGAPと農場HACCP認証基準との差分に関する文書を用意し、食品安全及び家畜衛生に関する審査が重複しないよう配慮。
- **農場HACCP認証制度との連携**については、上記の通り差分を用いた審査を可能とするとともに、審査員の登録要件にも農場HACCPの研修を含めるなどの対応を実施。
- 青果物等にある**団体認証**についても、近く策定。

JGAPの基準書(農産物)

日本GAP協会が発行している以下の基準書をダウンロードできます。 >>印刷された冊子版(有料)購入希望はこちら

JGAP Basic 2016 (2017年8月1日より、JGAP2016と改名)

2017年8月1日より、基準書に「JGAP Basic 2016」と記載がある部分は、全て「JGAP 2016」と読み換えます。

基準書		基準書ファイル
農場用 管理点と適合基準 Basic		
青果物	2016	
青果物	2016 英語版	
穀物	2016	
茶	2016	
茶	2016 英語版	

団体事務局用 管理点と適合基準2016

団体事務局用 管理点と適合基準2016 英語版

総合規則2017 (2017年8月1日より発効)

JGAP Basic 2016の基準書は、8月1日よりJGAP 2016と読み換え

JGAPの基準書はHPに全て掲載。
家畜・畜産物の基準書も新たに掲載。
(※農場HACCP認証基準との差分に関する文書も掲載)

JGAPの基準書(家畜・畜産物)

日本GAP協会が発行している以下の基準書をダウンロードできます。

JGAP2017 家畜・畜産物 (2017年3月31日発表)

基準書		基準書ファイル
農場用 管理点と適合基準		
	家畜・畜産物 2017	
総合規則【家畜・畜産物】2017		

JGAPと農場HACCP認証基準との差分に関する文書
(農場HACCP認証農場に対する差分審査において使用)

JGAPの開発を行う「技術委員会」

JGAPの基準書は、農業・食品産業・流通業・学識経験者等を幅広く組織した「技術委員会」により開発。このような組織で開発を行うことにより、日本農業の実情と、食品産業・流通業の要望の両方を踏まえた、実用性のある基準書とすることを実現。

<技術委員会委員の概況>

- 生産者 ※ JGAP認証農場、生産者団体 等
 - 流通業者 ※ (株)イトーヨーカ堂、オイシックスドット大地(株)、コストコホールセールジャパン(株)、(株)シジシージャパン、全国農業協同組合連合会、東京青果(株)、日本生活協同組合連合会、(株)ローソン 等
 - 食品製造業者 ※ 伊藤園(株)、いちかわライスビジネス(株)、スターゼンミートプロセッサ(株)、立山酒造(株)、(株)ツムラ、日本コカ・コーラ(株)、ハラダ製茶(株)、(株)福寿園、(株)フリーデン、三井農林(株)、(株)明治 等
 - 普及指導員
 - 獣医師
 - 学識経験者
 - 資材メーカー、分析機関 ※ 井関農機(株)、(株)つくば分析センター、豊田肥料(株)、バイエルクロップサイエンス(株) 等
 - 認定機関、審査・認証機関
 - 消費者団体
- 等 (2016年3月時点)

以下はJGAP 2016青果物の基準書の目次。**食品安全をはじめ、環境保全、労働安全、人権の尊重まで、農業の持続可能性に資する項目により構成。**

目次	
【管理点と適合基準】	15. 土の管理
A. 経営の基本	16. 水の利用及び廃水管理
1. 農場管理の見える化	17. 施設の一般衛生管理
2. 経営者の責任	18. 機械・設備、運搬車両、収穫関連の容器・備品、包装資材、掃除道具、工具等の管理
3. 計画及び実績評価	19. エネルギー等の管理、地球温暖化防止
4. 栽培工程及び収穫工程におけるリスク管理	20. 廃棄物の管理及び資源の有効利用
5. 農産物取扱い工程におけるリスク管理	21. 周辺環境への配慮及び地域社会との共生
6. 食品防御	22. 生物多様性への配慮
7. 供給者の管理	
8. 商品管理	
9. 苦情・異常・ルール違反への対応	C. 栽培工程における共通管理
10. 識別とトレーサビリティ	23. 種苗の管理
	24. 農薬の管理
B. 経営資源の管理	25. 肥料等の管理
11. 責任者及び教育訓練	
12. 人権・福祉と労務管理	D. スプラウト類専用項目
13. 作業者及び入場者の衛生管理	
14. 労働安全管理及び事故発生時の対応	E. きのこと類専用項目

以下は農場用管理点と適合基準の抜粋。適合基準は、適切な農場管理を実践するためのあるべき状態を示しており、取組例・備考は、取り組み方の例や参考情報(※ASIAGAPは別冊で提供)。

番号	レベル	管理点	適合基準	取組例・備考 (①や②の数字は適合基準に対応した番号)	適合性	コメント
B. 経営資源の管理						
11. 責任者及び教育訓練						
11.1	必須	農場の責任者	① 農場の責任者(管理点2.1参照)は、経営者から農場運営に関する執行を委任されている。 ② 農場の責任者は、下記に取り組んでいる。 1) JGAPに関する文書の改定について把握し、関係する責任者に周知している。 2) 自分の担当するJGAPの管理点について学習したことを説明できる。	②例えば、下記の方法がある。 1) 日本GAP協会のホームページを定期的に確認し、JGAPに関する最新の情報(総合規則、管理点と適合基準、技術レター等)を把握している。 2) JGAP指導員であり指導員証を示せる。JGAP指導員からJGAPに関する指導を受けて学習し、その内容を説明できる。		
11.2	必須	商品管理の責任者	① 商品管理の責任者(管理点2.1参照)は、下記の業務を統括している。 1) 商品の種類・規格の管理(品目・品種・栽培方法等) 2) 梱包・包装の形態や数量・重量を含む出荷仕様 3) 商品の表示の管理 4) 農産物の安全や品質の確保 5) 商品に関する苦情・異常及び商品の回収への対処 ② 商品管理の責任者は、下記に取り組んでいる。 1) 自分の担当するJGAPの管理点について学習したことを説明できる。 2) 商品管理に関する知識を向上させる努力をしている。	②例えば、下記の方法がある。 1) JGAP指導員であり指導員証を示せる。JGAP指導員からJGAPに関する指導を受けて学習し、その内容を説明できる。 2) 食品安全に関する一般衛生管理やHACCPの考え方等について外部の専門家または行政機関の実施する研修、指導、自己学習等で知識を向上させている。		
11.3	必須	肥料管理の責任者	① 肥料管理の責任者(管理点2.1参照)は、肥料等の選択・計画、使用・保管の業務を統括している。 ② 肥料管理の責任者は、下記に取り組んでいる。 1) 自分の担当するJGAPの管理点について学習したことを説明できる。 2) 施肥や土壌の管理に関する知識を向上させる努力をしている。	②例えば、下記の方法がある。 1) JGAP指導員であり指導員証を示せる。JGAP指導員からJGAPに関する指導を受けて学習し、その内容を説明できる。 2) 有資格者や行政機関の実施する研修や指導または自己学習・資格取得で知識を向上させる。日本の場合、施肥に関する資格として、普及指導員、農協の営農指導員、施肥技術マイスター、土壌区検定がある。		

- ✓ **売上や販路の拡大**など販売が改善されたとする農場が3割超。
- ✓ 45%の農場で**品質が向上**、30%の農場で単収が向上。
- ✓ **資材の不良在庫が削減**されたとする農場が54%、**生産コストが削減**されたとする農場が37%。
- ✓ 計画の立てやすさが改善されたとする農場は47%、**欠品や在庫が減少**したとする農場は40%。作業遅延が改善された農場は30%近く。
- ✓ **従業員の責任感や自主性が向上**したとする農場は約7割、従業員間の意思疎通が改善されたとする農場は56%。

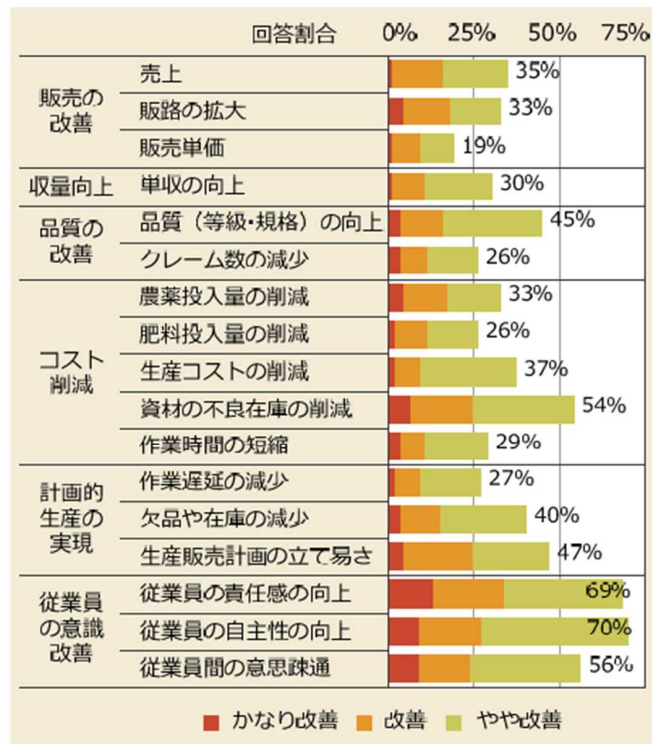
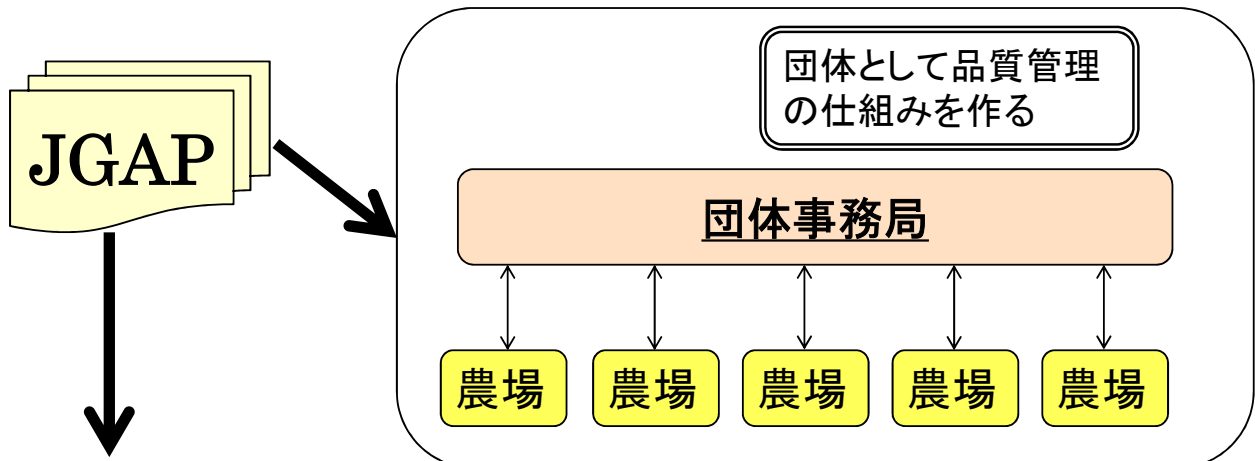


図1 GAP導入による経営改善効果

資料：GAP導入による経営改善効果に関するアンケート(2012年実施、JGAP認証農場(個別認証)164農場を対象に配布、回答数89、回収率54.2%)より。

JGAPの取り組み方—個別認証と団体認証—



取り組み方 ①
<個別認証>
 一つの農業経営体の品質管理体制がJGAPに適合しているかを審査する。

取り組み方 ② <団体認証>
 JA生産部会などの団体で、農場と団体事務局が分担して農場管理の仕事を効率的に実施。
 団体の品質管理の要となる団体事務局を中心に団体の品質管理体制を整え、団体としてJGAPに適合しているかを審査する。

JGAPを学んでみよう!(各種研修)

初級 (2日間コース)

JGAP指導員 基礎研修

JGAPの基礎の学習から、ケーススタディを用いた実習まで行います。現場での指導に役立つ実務者向けの研修であり、GAP初心者にも最適な内容です。

初級～中級 (1日コース)

JGAP指導員 現地研修

農場へのJGAP指導方法を学びます。JGAP認証を取得した農場を訪問し、研修を受けます。実例を通してJGAP導入方法や取り組み方(農場管理の手順)、JGAPの活用方法について学ぶことができます。

初級～上級 (2日間コース)

GAPの産地リーダー養成研修

生産者団体(JAなど)でJGAPに取り組む方法を学びます。実習を通して、JGAP団体認証のノウハウと生産者団体マネジメントの最先端テクニックを学びます。JGAP団体内部監査員の資格取得に必要な研修です。

JGAP指導員資格更新

(インターネット研修)

JGAP定期研修

JGAPで定めている基準について、農場の写真や帳票類を通して具体的な取り組み方を学ぶことができます。JGAP指導員としての知識と技術の向上に活用できます。インターネットを利用できる環境があれば、どこでも受講することができます。

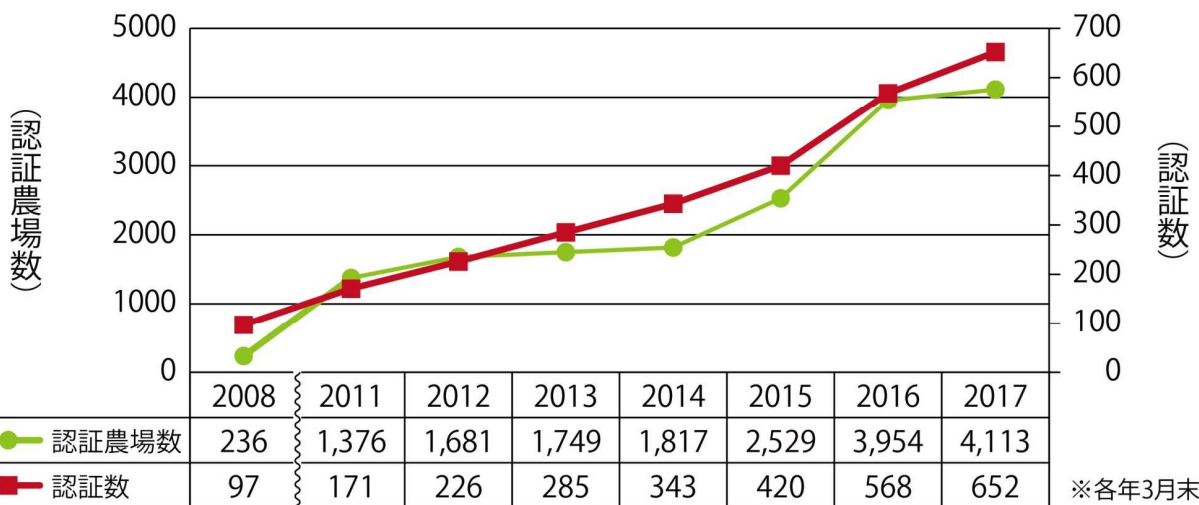
研修情報は随時更新しています。日本GAP協会ホームページ(<http://jgap.jp>)をご覧ください。

- JGAPの普及を支える指導者の育成も進めており、**年間で延べ100日以上、受講者総数1,700人以上(2016年)**となる公認の「JGAP研修」を全国各地で実施。
- 育成されたJGAP指導員は、全国で3,926名(2017年3月末)。
- ASIAGAPの研修も開始。

17

増加を続けるJGAPの認証農場

JGAP認証農場は4,113農場 (2017年3月末)



※各年3月末現在。認証農場数は、個別認証の農場数と団体認証の所属農場数の合計である。

- ✓ 日本国内において第三者認証の仕組みを持つGAPとして最多。
- ✓ 2017年3月末時点のJGAP Advanceの認証農場数は、うち583。

18

◆(株)ローソンとローソンファーム社長会

ローソンは、全国のローソンファームにJGAP導入を進めてきた(2016年末には22社が取得)だけでなく、各経営者がGAP導入事例の発表や意見交換を行い、お互いの農場管理を高め切磋琢磨する「ローソンファーム社長会」という他に類をみない活動を実施。認証を取得したローソンファームが各々の地域でローソンの他の契約生産者にGAPを指導、普及することで、地域におけるGAPの面的広がりも期待。

◆JAおおいたGAP研究会

いちご、みつば、柑橘の3つの品目部会を1団体に統合した形にJGAP団体認証を発展させ、より効率的な団体運営を実現。また、農業者の負担を軽減するためJAと農業者の役割分担を明確に行い、団体認証の事務局であるJA職員のサポートによって高齢の農業者でもGAPに取り組める工夫がされた模範的な事例。

19

◆日本コカ・コーラ(株)

緑茶飲料の原料茶葉の産地について、コカ・コーラグループ共通の取引産地基準であるSAGP(持続可能な農業の基本原則)を容易に導入するため、JGAP認証を取得している茶産地がSAGPとJGAPの差異部分のみ追加で取り組むことで、SAGP全体を導入することを可能にした。約6,000haもの栽培面積への導入を完了しており、今後は他の品目にも導入を予定。

※SAGP:Sustainable Agriculture Guiding Principle

◆韓国の営農組合法人ノルメインサム

韓国のK-GAPに加え、日本のJGAPや欧州のGLOBALG.A.P.にも取り組み、日本やその他海外市場への輸出を推進。韓国論山市指定の海外認証支援センターを立ち上げ、JGAPを含む海外のGAPに関する研修会を頻繁に開催。JGAPのハンゲル版の作成にも尽力。

20

- ◆ JA北魚沼GAP部会（稲作におけるJAと行政が連携したGAP普及）
- ◆ 三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会（国内随一のじゅんさい産地におけるGAPにより高品質化を目指す取り組み）
- ◆ 宮崎大学農学部（GAP普及に向けた教育プログラムの開発）
- ◆ 農業生産法人かさい農産（GAP実践の深化と新規就農支援）
- ◆ JA東予園芸とゼスプリゴールド部会（産地形成におけるGAP利用のさきがけ）
- ◆ 北海道・上川農業改良普及センターと担当普及指導員 伊與田竜（普及組織によるGAP普及）
- ◆ 株式会社セブンファーム（流通企業（イトーヨーカ堂）との協業）
- ◆ 株式会社日の丸産業社と同社のJGAP指導員（農業資材関係者によるGAP普及）
- ◆ ハラダ製茶農園屋久島農場とハラダ製茶グループ（茶のJGAP取得第1号であるとともに普及活動に尽力）

※これまでのGAP普及大賞受賞事例

認証農場はいつでも検索可能（日本GAP協会Webサイトより）

指導員検索も新たに整備。認証農場検索と同様に検索可能。また、指導ができる会員リストも掲載。

トップページの右側にある、ここをクリック。

都道府県毎や、その下のオプションでは基準書の版や品目別にも検索でき、認証農場名等を一覧することが可能。

※何も入力せず検索ボタンをクリックすると、全ての認証農場の一覧が表示されます。

農場名

登録番号(9ケタの数字)

都道府県

JGAP/ASIAGAPの版

品目名(野菜)

品目名(果物)

品目名(穀物、茶)

◆ 日本でのGAPをめぐる情勢の急速な変化

- 2020年東京オリンピック・パラリンピックの食材調達基準：**GAPを基本**
- 自民党の提言：**3年で認証数を3倍 など**
- 農水省の施策：**指導者育成への支援 など**
- 調達への採用：**食品産業の理解の拡大**
- **生産者の意欲の高まり**

日本農業は本格的なGAP普及のステージに！

23

Ⅱ . JGAP/ASIAGAPのこれから — 日本・アジアでのGAPの推進 —

24

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達基準は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が決定。

持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク(2016年1月)

- 気候変動、資源管理、水・緑・生物多様性、人権・労働・公正な事業慣行等への配慮、参加・協働
- ISO20121(Event Sustainability Management System)の導入

持続可能性に配慮した調達コード 基本原則(2016年1月)

- 組織委員会が調達する全ての物品・サービス及びライセンス製品が対象

2020年東京大会の食材調達基準の策定については、昨年8月より組織委員会の「持続可能な調達ワーキンググループ」において議論が進められ、**2017年3月に決定された。**

この調達基準の決定を受け、現在、「**飲食提供に関する基本戦略**」が2018年3月頃の公表を目途に検討が進められている。

持続可能性に配慮した調達コードの概要

◆ 持続可能性に関する基準(例)

- 全般:法令の遵守
- 環境:大気や水質の汚染防止、消費エネルギーの低減(省エネ)
- 人権:差別やハラスメントの禁止、女性の社会参加の推進
- 労働:児童労働や強制労働の禁止、最低賃金の支払

<持続可能性に配慮した農産物の調達基準の概要>

- ✓ 要件:①食材の安全の確保、②周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動の確保、③作業者の労働安全の確保
- ✓ 要件を満たすことを示す方法:ア、JGAP Advance、GLOBALG.A.P.、組織委員会が認める認証スキーム ※JGAP、ASIAGAPもこのカテゴリに含まれる。
イ、「農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン」に準拠したGAPに基づき生産され、都道府県等公的機関による第三者の確認

<持続可能性に配慮した畜産物の調達基準の概要>

- ✓ 要件:①食材の安全の確保、②環境保全に配慮した畜産物生産活動の確保、③作業者の労働安全の確保、④快適性に配慮した家畜の飼養管理
- ✓ 要件を満たすことを示す方法:ア、JGAP、GLOBALG.A.P.、組織委員会が認める認証スキーム イ、「GAP取得チャレンジシステム」に則って生産され、第三者の確認

- 農産物の輸出において、GAPが注目されている。取引する農産物の安全性が確保されていることは、海外のバイヤーにとって最も重要な課題のひとつ。
- アジアではまだそれほど普及していないが、欧米の大手の食品企業では、購買する農産物に第三者認証のついたGAPを求めることが浸透してきており、普及が進展。今後、アジアでも遠からずGAPが普及してくると考えられる。
- 世界各国には、農業や風土、商取引等の事情を踏まえた固有のGAPがある。例えば、ヨーロッパにはGLOBALG.A.P.、北米にはSQF（食品加工等も含む）やCANADA GAP、南米のChileG.A.P.、アジアにもJGAPの他、中国のChina GAP、台湾のTGAPなど、多数のGAPがある。
- 一方、米国では2011年に食品安全強化法(FSMA)が成立し、食品医薬品局(FDA)の権限が多岐にわたり強化。農産物の安全基準もこの中に含まれることになった。

世界のGAPの例



農業や商取引等の事情を踏まえたGAPが世界各国・地域にあり、これはその一例。バイヤーが求めるGAPの認証を取ることが販路の拡大につながる。

◆ Global Food Safety Initiative (GFSI)

- 世界の 小売業・食品メーカーで構成される The Consumer Goods Forum の下で 2,000年に設立された世界最大の業界団体の一つ。本部はフランス・パリ。日本にもローカル・グループがある。
- GFSIは自らはスキームや制度は運営しないが、中心的な活動の一つとして、食品安全にかかわる認証制度(スキーム)について、その同等性を判定・承認する仕組み(ベンチマーク)を提供。
- GFSI から承認された認証制度は「GFSI 承認スキーム」と呼ばれ、信頼に足る食品安全の認証制度として認識される。
- 対象は食品加工・農業などであり、GAPも対象。

<GFSI承認スキーム>

- ・GAP・・・Primus GFS、GLOBALG.A.P.、CANADA GAP、SQF
- ・HACCPほか・・・Primus GFS、IFS、Global Aquaculture Alliance、FSSC22000、GRMS、SQF、BRC

※ GFSIウェブサイト掲載順。Primus GFS 及びSQFはGAP、HACCPの両方をカバー。他に技術的同等性を持つ政府規格として承認されたChina HACCPがある。

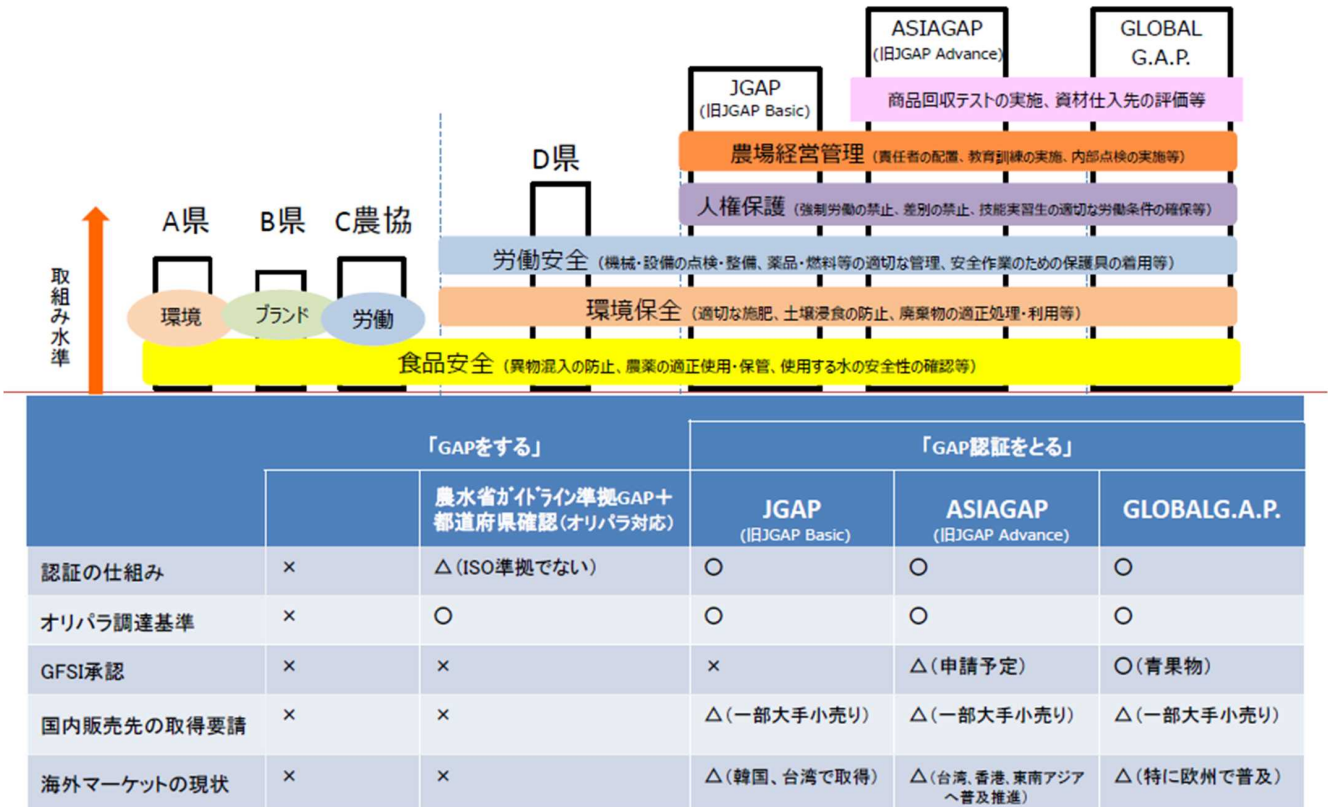
日本での開催が決定されたGFSIの重要な二つのイベント JGAP

今年9月4日に開催(参加者は約400名にも達した)

来年3月5～8日(前回(今年)はヒューストンで開催された)



<各GAPの構成と特徴－農産関係－(農水省資料より)>



31

GLOBAL G.A.P.とJGAP /ASIAGAP(農水省資料より)

	GLOBAL G.A.P.	ASIAGAP/JGAP
運営主体	FoodPLUS GmbH(ドイツ)	一般財団法人 日本GAP協会
審査会社	3社(東京2、神奈川1) ※いずれも外資系日本法人(日本人審査員がいない会社が他に2社あり)	4社(北海道1、東京2、神奈川1)(審査会社によっては地方に審査員を配置)
審査費用	25~55万円程度+旅費(内訳) ①運営会社への登録料 ※面積に応じて増減 日本の一般的な規模の場合: 5~30ユーロ程度 ②審査経費	10万円程度+旅費(内訳) ①運営会社への登録料 ※面積によらず一律(個別認証)5,000円(団体認証)2,000円/経営体 ②審査経費

(参考) 認証取得に向けたコンサルタントの指導 ※コンサルタントの受講は、認証取得にあたっての必須要件ではありません。

	GLOBAL G.A.P.	ASIAGAP/JGAP
コンサルタント会社	大手3社(東京1、茨城2)	大手1社(茨城) 中小数社(茨城、静岡等)
コンサルタント費用	40~55万円程度+旅費 ※標準指導日数 5日間程度	25~30万円程度+旅費 ※標準指導日数 5日間程度
コンサルタント育成制度	民間コンサルタントが独自の評価員制度を運用	日本GAP協会が定めるASIAGAP等指導員、ASIAGAP等上級指導員の研修・登録制度がある

- ◆ 食料・農業・農村基本計画(平成27年3月)
- ◆ 農林水産業の輸出力強化戦略(平成28年5月)
- ◆ 日本再興戦略2016(平成28年5月)
- ◆ 農林水産物輸出インフラ整備プログラム(平成28年11月)
- ◆ 農業競争力強化プログラム(自民党・公明党。平成28年11月)
- ◆ 規格・認証等戦略に関する提言(自民党。平成29年5月)

これら農政の基本文書においては、GAP導入の推進に加え、日本発の国際的に通用する民間規格・認証の仕組みの構築・充実・普及を図る(農林水産物輸出インフラ整備プログラム)ことが、それぞれ言及されている。

- 自民党「規格・認証等戦略に関する提言」では、目標に以下が明記。
 - GAP認証を平成31年度末までに現状の3倍以上とすることを旨とする。
その際、国際水準であるJGAPまたはGLOBALG.A.P.を推奨する。
 - 日本発の規格であるJGAPについて、国際的な標準化過程(ルールメイキング)への参画を目指すため、できるだけ早期のGFSI承認に向けて官民挙げてあらゆる努力を行う。併せてアジアで主流の認証の仕組みとなるよう取り組む。

(参考)

自民党
「規格・認証等戦略に関する提言」
平成29年5月19日

農林・食料戦略調査会、農林部会、農林水産業骨太方針実行PT

抜粋

II 目標と具体的施策

1. GAP (農業生産工程管理)

- 第1期の目標を、「生産現場が変わる」こととし、第2期の目標を、「我が国の生産現場で国際水準に達するGAPの取組が浸透する」こととする。
 [GAPはしばしば「とる」と表現されるが、GAPは取組を指す言葉であり、「GAPをする」と「GAP認証をとる」の意味は明確に異なる。この目標は、「GAPをする」の目標である。]
- 上記を達成するために、まず、国際水準のGAPの指導體制を第1期の早い時期に構築するとともに、農業高校、農業大学校等教育機関におけるGAP教育を促進するほか、流通・小売を含めフードチェーンを通じた価値の共有を図る。
- GAP認証については、平成31年度末までに国内で現状の3倍以上の認証取得を目指す。これにより、東京大会に必要な食材量を余裕を持って十分に供給できるための農産物等の出荷量も確保できる。
- その際、GAP認証については、国際水準であるJGAPまたはGLOBALG.A.P.を推奨する。この2つのどちらを選択するかは、海外を含めた取引先の要求や取り組みやすさ等を勘案し、農業者が選択を行う。
- 日本発の規格であるJGAPについて、国際的な標準化過程(ルールメイキング)への参画を目指すため、できるだけ早期のGFSI[※]承認に向けて官民挙げてあらゆる努力を行う。併せて、アジアで主流の認証の仕組みとなるよう取り組む。
 ※ GFSI (Global Food Safety Initiative : 世界食品安全イニシアティブ) とは、食品安全の向上と監査コストの適正化を目的とした民間事業者による国際的な組織。
- なお、都道府県等が独自にGAPを策定していることで生産現場が混乱する恐れがあることから、東京大会までに、農林水産省ガイドラインへの準拠を働きかけ、統一化していく。
 東京大会後は、農林水産省ガイドラインを国際水準に改訂する。
 (結果として、独自のGAPは発展的に解消される。)

◆ アジアにおける農業と食料消費の今後

- 消費は穀物から青果物、畜産物にシフト
- 消費者の食の安全への関心の高まり

※ 自国のGAPを持つ国も多い。ガイドラインとしてのASEAN GAPの存在



- 食料需要は大幅に増加
- 農業生産は、高品質化・多様化へ

35

ーアジア共通のGAPのプラットフォームづくりを目指すー

◆ ASIAGAPの普及方策

- GFSIへの賛同 (GFSI承認申請、GMaP*の活用)
- 多言語版の開発
- 海外事務所の展開等

*GMaP: GFSI Global Markets Programme



ASIAGAP認証
農場マーク

アジアにおける
食の安全と農業の持続可能性への貢献

36

ASIAGAPの基準書(農産物)

日本GAP協会が発行している以下の基準書をダウンロードできます。

ASIAGAP (2017年7月6日発表、2017年8月1日より審査受付開始)

JGAP Advance 2016の基準書は、8月1日よりASIAGAP Ver.1と読み換え

基準書		基準書ファイル
農場用 管理点と適合基準		
青果物 Ver.2	JGAP Advance 2016 (2017年8月1日よりASIAGAP Ver.1と改名、管理点と適合基準は2018年7月31日まで初回・更新審査受付)	
穀物 Ver.2	2017年8月1日より、基準書に「JGAP Advance 2016」と記載がある部分は、全て「ASIAGAP Ver.1」と読み換えます。	
茶 Ver.2		
団体事務局用 管理点と適合基準Ver.2		
総合規則2017		
基準書		基準書ファイル
農場用 管理点と適合基準 Advance		
青果物 2016		
青果物 2016 英語版		
穀物 2016		
茶 2016		
茶 2016 英語版		
団体事務局用 管理点と適合基準2016		
団体事務局用 管理点と適合基準2016 英語版		

ASIAGAPの基準書は全てHPに掲載。
(※JGAP Advanceからの移行情報もあり)
英語版、中国語版等も順次発行予定。

GFSI BRV7の構造とASIAGAPの対応

GFSI Benchmarking Requirements Version7.1の構造

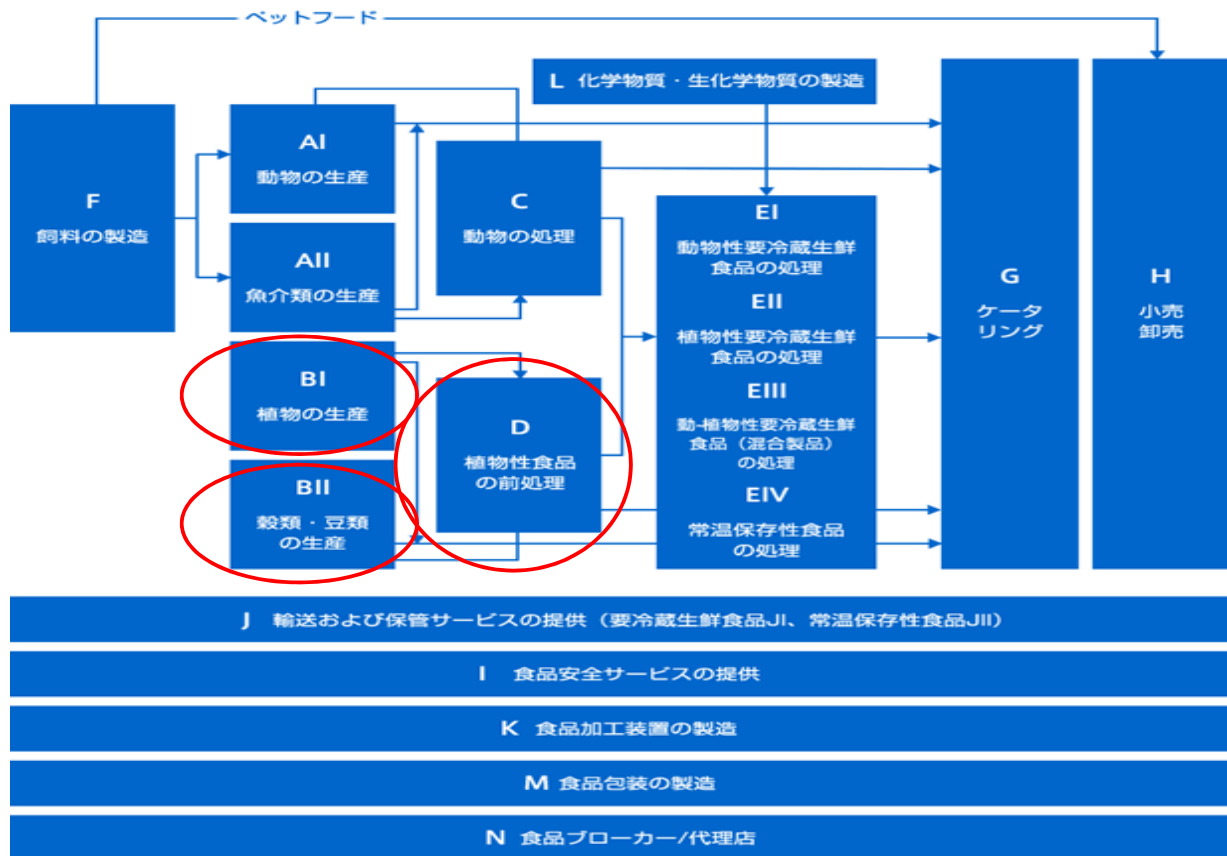
- 第1部:ベンチマーキングプロセス
GFSI承認に関する手続きが記載
- 第2部:スキーム管理への要求事項
スキームへの品質管理要求が記載
- 第3部:セクター毎の要求事項
 B I → 作物の栽培
 B II → 穀類と豆類の栽培
 D → 植物製品の前処理

<ASIAGAPの対応>

- * 青果物 → B I、D
- * 穀物 → B II、D
- * 茶 → B I、D

第3部にはセクター毎に以下の要求がある

- * **セクション1: HACCPまたはHACCPベースの要求事項**
- * **セクション2: 食品安全マネジメントシステムの要求事項**
- * **セクション3: 業種別適正基準(GAP、GMPなど)の要求事項**



39

◆ 日本GAP協会の新たな取組

- JGAP家畜・畜産物の開発
- **ASIAGAPの開発**

※ GFSI Benchmarking Requirements に対応

<JGAP/ASIAGAPの強み>

- ✓ 日本・アジアの農業生産条件、中小規模の生産者への対応
- ✓ 多数の研修の実施による、約4,000名もの指導者の存在
- ✓ 多様な関係者から成る技術委員会での基準書開発により、多くの食品流通業者や製造業者からの支持